

寄附者設定テーマ事業 事業報告シート

団体名	シニアネットはまだ
テーマ名	フリーテーマ(科学技術の振興)
事業名	シニア世代のスマートフォン活用促進事業～認知症見守りシステム中心に～
事業費(うち助成金額)	100,237 円(100,000 円)
ネーミングライツ(該当があれば)	該当無し



■事業目的

「シニアネットはまだ」は急速に発展する情報化社会に対応するため、シニア世代のスマートフォン活用スキルの向上に鋭意努力し、ICT を活用し豊かな高齢社会を目指しています。今回、浜田市が導入する認知症見守りシステムをより機能させるために QR コードの読み取りなどのスキルが不可欠です。シニア世代でそのようなスキルを身につけた人は多いとは言いがたいです。このシステムの導入を契機として、まずは QR コードの読み取りや通報方法を理解してもらい、デジタル・ディバイドの解消でシニア世代も世の中に対応できるようにスマートフォンの操作のさらなる向上を支援します。

■事業内容

- (1) 認知症見守りシステム説明会の開催支援（浜田市と連携）。浜田市が開催を予定している同システム説明会の支援を行う。（4月19日に実施）
- (2) シニア世代のスマートフォンの活用促進に関する講演会。（4月19日に実施）
島根県立大学の教員を講師として、おもにシニア世代向けに講演会を開催。
- (3) QR コードの利用に関する講習会の開催。（学生スマホ教室・3回開催）
- (4) QR コードの利用に関する勉強会の開催。（同会会員向け「スマホ井戸端会議」(56名登録) (月2回開催) へ一般市民の方も参加している)

■事業成果と今後の展望

事業内容 (1) (2) 「スマホを使いこなそう」金野教授の講演会と浜田市「どんちっち SOS 見守りシール交付事業」浜田市長・健康医療対策課から説明、にはコロナ禍で入室制限ギリギリの 77 名の参加があり内一般参加者は 29 名でした。参加者からも“QR コード”の存在は知っていても使ったことがなかったが今後は QR コードラベル・シールに注意を払い見かけたら声かけをしていきたい。との声がありました。今後も学ぶ機会があればぜひ参加していきたいという声が上がりました。

(3) 「学生スマホ教室」は 3 回開催し延べ参加者数は 122 名。内一般参加者は 36 名。講師の学生さん 16 名。各教室の人数制限があるなか皆さん熱心に取り組みました。スキルアップに大いに役立ちました。(4) 「スマホ井戸端会議」ではテーマごとに交替で講師を務めるなどスマホスキルの底上げもしています。現在は手分けしてテキストの作成をしています。シニア世代のスマートフォンの更なるスキル向上に努めて参ります。